

# 国際理解出前講座

## 大草原の国・モンゴル



10月16日（金）安室東公民館において、国際理解出前講座「大草原の国・モンゴル」を実施しました。講師は、モンゴル出身で、現在は結婚して姫路市内にお住いのレンツェンホルロー・オユンゲレルさんです。

まずは、名前の説明がありました。本当はもっと長い名前ですが、「友達には『オーヨー』というニックネームで呼ばれているので、皆さんもオーヨーと呼んでくださいね。」と微笑まれました。参加者の方も、一気にオーヨーさんを身近に感じられたようです。



モンゴルと言えば、参加者の方からは、やはり「相撲」という言葉が出てきました。モンゴルには、夏に「ナーダム」というお祭りがあるそうで、そこでは「相撲」「競馬」「弓」の競技が争われます。モンゴルでは、これらの競技に勝った人は英雄だそうです。

また、モンゴルの人は馬が大好きで、相撲だけでなく競馬も人気があるそうです。馬に乗る子どもたちがあげるかけ声「ギーンゴー」を、オーヨーさんが真似た時は、一瞬モンゴルの草原にいるかのような気持ちになりました。



《モンゴル相撲・ブフ》

珍しいモンゴルのお話に参加者の皆さんからは、本当にたくさんの質問が飛び出しました。「水・電気・暖房はどうするのか?」「お風呂は入るのか? 入るとしたらどれくらいの頻度で?」「馬の乳から作る馬乳酒はどんな味が?」など、生活に密着した具体的な質問が多く、皆さんが興味を持って聞いてくださっていたことがよくわかりました。

《弓》



《競馬を終えた子どもたち》



《お正月の挨拶をする家族》

